

特産品直売所成功の秘訣

山口県田布施町

「田布施地域交流館」に学ぶ

《表面からのしき》

館内は明るい雰囲気、店員の皆さんの元気な声が響き、活気にあふれています。

地元産の野菜や果物がズラリと並び、お菓子やジャムなどの加工食品もすべて田布施で作られたものです。また、館内の加工場では惣菜やお弁当も作られ、



館内には明るい声があふれています

ここで販売されています。田布施産の美味しくて安全な食材を求めて、地元の方々はじめ、町外からも多くの買い物客がここを訪れています。売上高も右肩上がりで、昨年一年間の売上高は3億5千万円に達しています。多くの直売所が赤字経営で自治体やJAなどの補助を受けている中で、独立採算で黒字経営をしているところは注目に値します。

「直売所甲子園2013」では、丁寧な接客や地産地消へのこだわり、生産者の所得向上と生産技術の向上対策の実施などが評価されて、全国でベスト6に入る

「直売所甲子園2013」受賞直売所

◎農林水産大臣賞・優勝：みずほの村市場（茨城県）

◎優秀賞：

田布施地域交流館（山口県）

おむら夢ファームシュシヨ新鮮組（長崎県）

あいとう直売館（滋賀県）

伊豆・村の駅（静岡県）

内子フレッシュパークからり特産物直売所（愛媛県）

「優秀賞」に選ばれました。

こうして、全国でも注目される直売所になった「田布施地域交流館」ですが、ここまでくるには、関係者の皆さんの努力の積み重ねがありました。協同組合 田布施地域交流館の理事長をされている守田英正さんに、お話を伺いました。

◎守田理事長さんへのインタビュー

Q. 館内がとても活気がありますね。

A. 現在、事務が4名、レジ係が9名働いています。店内では積極的に声を出して、お客さんに声掛けするようにしています。

Q. 店員の皆さんの教育にも力を入れているのですね。

A. もちろんです。例えば、レジ係でも、野菜の苗を買われたお客さんから野菜の育て方を聞かれたりすることもありますが、お客さんの質問に答えられるように、さまざまな商品知識を身に付けるように勉強会を開催しています。

Q. 安全な食品を提供することに力を入れておられますね。

A. おそらく山口県内の直売所で一番きびしい基準を設けていると思います。出荷の際には栽培記録での検査を行う他、公的検査機関に依頼して、定期的に商品の残留農薬の抜き取り調査を行い、検査結果を館内に掲示しています。出荷の自主検査で合格した商品には「安全・安心」シールが貼られていますので、安心してご購入いただけます。



安全・安心シール

Q. 生産者の方への対応は？

A. 専業農家はくわすかで、多くは兼業農家か、定年退職後に農業を始めた方です。少量生産の方がほとんどです。したがって、委託販売の手数料も10%と、通常の直売所に比べると安くして、出品しやすくしています。また、野菜の栽培技術の講習会や農薬に関する知識の講習などを行い、生産者の技術向上に努めています。

Q. 館内に入った時にイチゴの甘い香りが広がっていて、おもわずイチゴを買ってしまいました。



ズラリと並んだ完熟イチゴ。甘い香りが購買意欲をそそります。

A. ここで販売しているイチゴはすべて完熟イチゴです。スーパーなどでは熟れる前に収穫して、流通する間に熟れたものが店頭には並びますが、直販所ではその日の朝に収穫したものがすべてに店頭並びわけです。完熟のものだけを収穫して出荷していただくように組合員の皆さんにお願いしています。こうして取り組みができるのは直販所ならではの強みです。

Q. オリジナルの焼酎も商品化して販売されていましたね。

A. 新しいオリジナル商品を開発することによって、田布施をもっとアピールし、直売所の売り上げを増やす効果も期待できますが、規格外で出荷できないような芋を買い取って焼酎にすることによって、生産者の皆さんの収入増につながっています。

Q. 今後の課題はありますか？

A. 生産者が高齢化し、辞められる方も増えてきました。一方で、定年退職された方が、野菜の栽培を始めて出荷されることも増えています。今後は定年退職された方々にもっと声をかけて組合員になっていただき、支援して、生産量を増やしていくなどの施策が必要だと思います。

それから、現在では、平生・柳井・光など近郊地域に直売所が増えて過当競争ぎみになっています。秋には上関にもできるということですので、ますます厳しくなっていくのではないかと考えています。



田布施地域交流館オリジナルの芋焼酎「地産芋むすめ」と米焼酎「花もり」

今や全国でもトップクラスの直売所になった「田布施地域交流館」。私たち上関町民にとっては身近に存在するよいお手本となるでしょう。しかし、人口1万6千人の田布施町に対して、上関町は人口3千人余りと、集客や生産者の確保などの条件としては、かなり厳しいと思われれます。多くの町民が生産者として、また消費者として利用し、「海のまち上関」らしい特徴のある品揃えやイベントなどで、町外からも集客できるような仕組みを考えていくことが重要だと思えます。

◎「田布施地域交流館」

所在地：山口県熊毛郡田布施町中央南 1-8

電話：0820-51-0222

営業時間：午前8時～午後4時30分

定休日：年中無休(年末年始を除く)

Webサイト：<http://tabuse.biz/>

◎「わいわいタイムス」5月号は5月4日(日)発行予定です。